

ドメイン/Webサービス Webサーババージョン3 新機能・仕様変更機能紹介資料

株式会社大塚商会

ドメイン/Webサービス Webサーババージョン3 機能強化概要

■リリース予定

2026年2月3日（火）

■対象サービス

たよれーる Microsoft 365 ドメイン/Webサービス

■機能強化内容（新機能）

1. FTP利用制限
2. HTTP接続元制限
3. 常時SSL化設定
4. Webサーバ情報 > 送信元アドレス設定
5. ステージング環境

■仕様変更

- 6. DKIM対応
- 7. 作成ツール> モバイルURL振り分け
- 8. ファイルマネージャ ファイル登録サイズ上限引き上げ
- 9. 独自SSL管理 > 独自SSL設定 証明書、秘密鍵の取得
- 10. FTP接続元制限
- 11. ディスク利用状況
- 12. Webサーバ情報の変更

■機能削減

- 13. 作成ツール> アクセスカウンタ

新機能

1:FTP利用制限

FTPを利用しない時には接続を制限し、必要な時にだけFTP(S)を解放できる機能が追加されます。

The screenshot shows a web management interface with a sidebar on the left and a main content area on the right. The sidebar contains a list of settings categories, with 'FTP利用制限' (FTP Utilization Restriction) highlighted by a red rectangle. The main content area is titled 'FTP利用制限' and contains the following sections:

- FTP利用制限**
すべてのFTP接続ならびにFTPS接続を制限します。
設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。 [設定]
- FTP(S)接続の制限**
※すべてのFTP/FTPS接続を遮断します。(日本国内からの接続も含まれます)
※FTP接続またはFTPS接続を行わない場合は、本設定で“制限する”を選択することを推奨いたします。
☐ 制限する
☒ 制限しない
- FTP/FTPS接続選択**
※“FTPS接続のみ許可する”を選択する場合、管理者機能「独自SSL管理」で設定を行う必要があります。
☐ FTPS接続のみ許可する
☒ FTP/FTPS接続を許可する

A yellow callout box at the bottom right of the main content area contains the following text:

FTP(S)接続の制限を「制限する」にした場合、ポート番号21を閉鎖します。

「制限する」の場合は非表示/
FTP(S)接続の制限を「制限しない」にした場合、更に
FTP/FTPS接続の選択が可能となります。

1:FTP利用制限 組み合わせ

FTPの接続については、「FTP利用制限」と「FTP接続元制限」の組み合わせで設定されます。

- ①「FTP利用制限」で制限の有無を設定
- ②「FTP接続元制限」で「FTP利用制限」= 制限をしない場合の詳細設定

制御の順番は参照URLのフローをご確認ください。

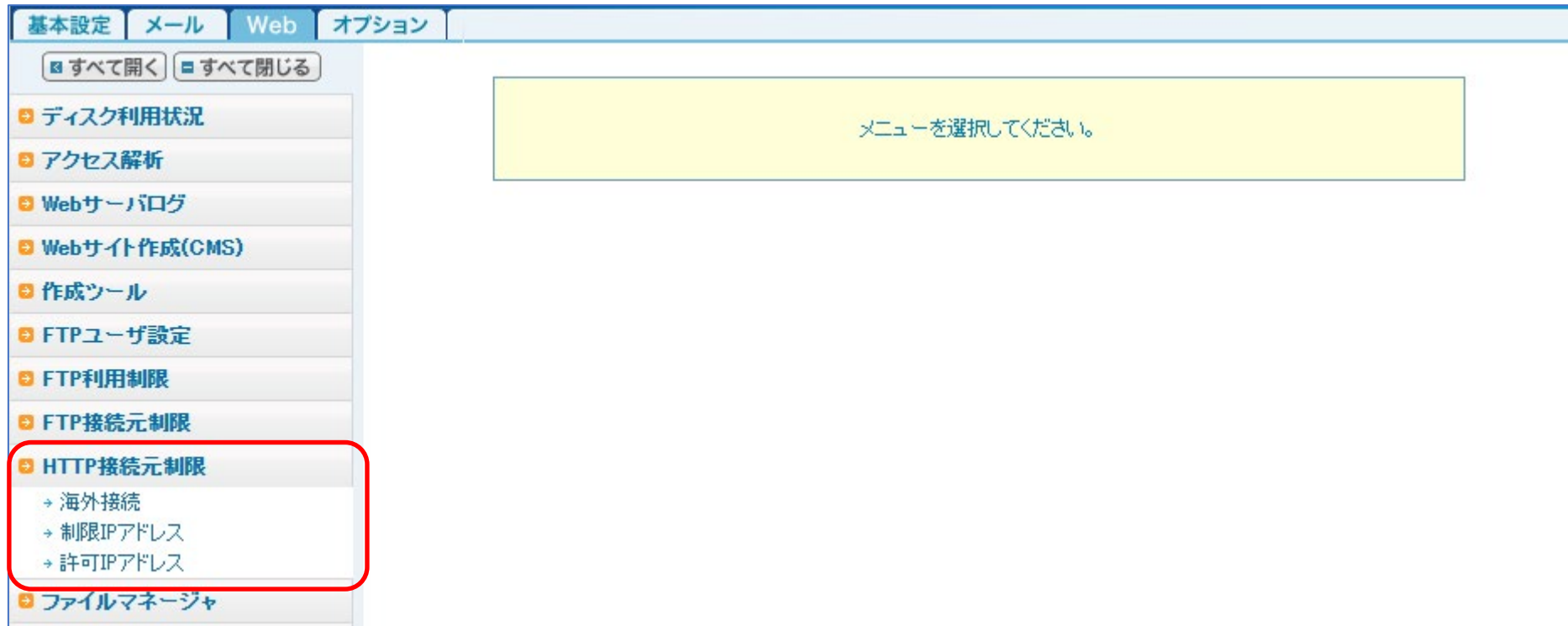
参照URL https://dw.alpha-prm.jp//support/help/mail_p_kanri_016.html

2:HTTP接続元制限

お客様が公開しているWebサイトに対して、HTTP接続元制限の機能が追加されます。
WAFを導入される際に、WAF経由の接続のみ許可するという制限設定も可能となります。
以下の3つのサブメニューの設定を組み合わせご利用いただきます。

- ・海外接続
- ・制限IPアドレス
- ・許可IPアドレス

この設定はお客様サイトへの全アクセスに適用されます。



2:HTTP接続元制限

3つの設定の優先順位と、設定時の結果は以下のとおりです。

【優先順位：許可IP＞制限IP＞海外接続】

参照URL https://dw.alpha-prm.jp//support/help/mail_p_kanri_017.html
https://dw.alpha-prm.jp//support/help/mail_p_kanri_0816_9.html

No	許可IP	制限IP	海外接続	接続結果
1	設定あり	制限なし	設定なし	全て○
2			制限あり	国内IPまたは許可IP○
3		制限あり	設定なし	制限IP以外○
4			制限あり	許可IPまたは（国内IPかつ制限IP以外）○
5		全てのIP	設定なし	許可IPのみ○
6			制限あり	許可IPのみ○
7	設定なし	制限なし	設定なし	全て○
8			制限あり	国内IPからのみ○
9		制限あり	設定なし	制限IP以外○
10			制限あり	国内IPかつ制限IP以外○
11		全てのIP	設定なし	全て×
12			制限あり	全て×

2:HTTP接続元制限(海外接続)

FTP接続元制限と同じリストを使用し、海外IPからのHTTP/HTTPS接続制限機能が追加されます。
対象ポート番号は80、443です。

基本設定 メール Web オプション

☑ すべて開く ☐ すべて閉じる

→ ディスク利用状況

→ アクセス解析

→ Webサーバログ

→ Webサイト作成(CMS)

→ 作成ツール

→ FTPユーザ設定

→ FTP利用制限

→ FTP接続元制限

→ **HTTP接続元制限**

→ 海外接続

→ 制限IPアドレス

→ 許可IPアドレス

海外接続

海外からのHTTP接続ならびにHTTPSへのアクセスを制限します。
※“制限する”を選択した場合は共用SSL経由のアクセスも制限の対象となります。
※「許可IPアドレス」で登録した海外のIPアドレスは、“制限する”を選択した場合でも接続が可能になります。
※HTTP接続元制限の設定例は[こちら](#)

設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。

設定

※すべての海外からのHTTPとHTTPS接続が遮断されます。
※本設定で“制限する”を選択している状態で、一部の海外IPアドレスを許可する場合は、「許可IPアドレス」の画面で設定してください。

☐ 制限する(日本国内のみ接続を許可)

☒ 制限しない

- ・接続制限する国や地域の選択はできません。
- ・共用SSL経由も制限対象となります。
- ・ここで「制限する」を選択しても、「許可IPアドレス」で登録した海外IPアドレスからは接続が可能になります。

2:HTTP接続元制限(制限IPアドレス)

任意で制限したいIPを設定（上限100行まで）することでHTTP/HTTPS接続制限機能が追加されます。
すべてのIPからの接続制限も設定が可能です。
対象ポート番号は80、443です。

制限IPアドレス

HTTPとHTTPSの接続を制限するIPアドレスを設定します。特定のIPアドレスからの接続を遮断することができます。

※“すべてのIPアドレス”を選択した場合は共用SSL経由のアクセスも制限の対象となります。
※ここで制限IPアドレスを設定しても、「許可IPアドレス」で登録したIPアドレスからは接続が可能になります。
※IPアドレスは、計100件まで登録できますが、プライベート（ローカル）アドレス、ネットワークアドレスは指定できません。
※固定IPアドレスを指定してください。不明な場合は、プロバイダの契約内容をご確認ください。
※HTTP接続元制限の設定例は [こちら](#)

☐ すべて開く ☐ すべて閉じる

登録 **変更** **削除**

	制限IPアドレス	更新日時▼	備考
<input type="checkbox"/>	すべてのIPアドレス	2025/09/17 13:50	
<input type="checkbox"/>		2025/08/22 09:21	
<input type="checkbox"/>		2025/08/22 09:20	
<input type="checkbox"/>		2025/08/22 09:20	
<input type="checkbox"/>	157.205. /24	2025/08/22 09:15	CIDR表記

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 登録数5件／あと95件

- すべてのIPアドレスを選択した場合は共用SSL経由も制限対象となるので、ファイルマネージャーも接続ができなくなります。
- ここで制限IPアドレスを設定しても、「許可IPアドレス」で登録したIPアドレスからは接続が可能になります。

2:HTTP接続元制限(制限IPアドレス)

制限IPアドレス登録 - 職場 - Microsoft Edge

新しい制限IPアドレスを登録します。
必要な情報を入力してください。

* 制限IPアドレス	<input checked="" type="radio"/> IP 指定 <input type="radio"/> すべてのIPアドレスを制限 <input type="radio"/> CIDR 表記
備考	<input type="text"/> (32文字以下で入力)

* は必須入力項目です。

- 【制限IPアドレス】
IP指定
0～255 までの数字を入力してください。
CIDR表記
連続したIPアドレスを指定する場合にご利用ください。
例) 157.205.xxx.0 ～ 157.205.xxx.255 の場合は 157.205.xxx.0/24
「範囲表示」をクリックすると指定した範囲が入力欄の下に表示されます。
入力内容を変更した場合は、再度「範囲表示」をクリックしてください。
- 【備考】
32文字以下で入力してください。

登録 閉じる

・今後WAFを導入され、WAF経由の接続のみ許可する場合は、「許可IPアドレス」の画面でWAFのIPアドレスを登録してから、この画面で「すべてのIPアドレスを制限」を設定します。

2:HTTP接続元制限(許可IPアドレス)

海外接続や制限IPアドレスで設定したIPアドレス制限を解除するIPアドレスを設定（上限100行まで）することでHTTP/HTTPS接続可能となる機能が追加されます。
対象ポート番号は80、443です。

基本設定

メール

Web

オプション

すべて開く

すべて閉じる

ディスク利用状況

アクセス解析

Webサーバログ

Webサイト作成(CMS)

作成ツール

FTPユーザ設定

FTP利用制限

FTP接続元制限

HTTP接続元制限

海外接続

制限IPアドレス

許可IPアドレス

許可IPアドレス

HTTPとHTTPSの接続を許可するIPアドレスを設定します。特定のIPアドレスからの接続を許可することができます。
※IPアドレスは、計100件まで登録できますが、プライベート(ローカル)アドレス、ネットワークアドレスは指定できません。
※固定IPアドレスを指定してください。不明な場合は、プロバイダの契約内容をご確認ください。
※HTTP接続元制限の設定例は[こちら](#)

登録

変更

削除

	許可IPアドレス	更新日時▼	備考
<input type="checkbox"/>	157.205 /32	2025/08/28 15:07	

←

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

→

登録数1件／あと99件

2:HTTP接続元制限(許可IPアドレス)

許可IPアドレス変更 - 職場 - Microsoft Edge

許可IPアドレスを変更します。
必要な情報を入力してください。

* 許可IPアドレス	<input type="radio"/> IP 指定 <input checked="" type="radio"/> CIDR 表記 157 . 205 . / 16 範囲表示 現在指定されている範囲: 157.205.0.0 ~ 157.205.255.255
備考	<input type="text"/> (32文字以下で入力)

* は必須入力項目です。

- 【許可IPアドレス】
IP指定
0~255 までの数字を入力してください。
CIDR表記
連続したIPアドレスを指定する場合にご利用ください。
例) 157.205.xxx.0 ~ 157.205.xxx.255 の場合は 157.205.xxx.0/24
「範囲表示」をクリックすると指定した範囲が入力欄の下に表示されます。
入力内容を変更した場合は、再度「範囲表示」をクリックしてください。
- 【備考】
32文字以下で入力してください。

変更 閉じる

・今後WAFを導入され、WAF経由の接続のみ許可する場合は、この画面でWAFのIPアドレスを登録してから、「制限IPアドレス」の画面で「すべてのIPアドレスを制限」を設定します。

3:常時SSL化設定

独自SSL証明書を設定されているお客様のために、簡単に常時SSL化できる機能が追加されます。

基本設定

Web

オプション

すべてを開く

すべてを閉じる

ディスク利用状況

アクセス解析

Webサーバログ

Webサイト作成(CMS)

作成ツール

FTPユーザ設定

FTP利用制限

FTP接続元制限

HTTP接続元制限

ファイルマネージャ

cron設定

MariaDB

PostgreSQL

Webサーバ管理

Webサーバ移動状況

パッケージ管理

独自SSL管理

常時SSL化設定

常時SSL化設定

お客様ホームページへHTTP(非SSL)でアクセスされた際に、HTTPS(SSL)でのアクセスへ自動的に遷移させます。
“設定する”を選択すると、お客様ホームページへ http://~ でアクセスされ場合、https://~ へ変更 するようになります。

設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。

設定する

設定しない

コモンネーム (Common Name)

https://www

https://

・独自SSLが設定されている前提なので、独自SSLを設定しないで常時SSL化を設定した場合は、エラーが表示され、設定が行えません。

・この機能では「httpd.conf」でHTTP301リダイレクトが設定されます。ただし、お客様がすでに「.htaccess」に設定されているものがあれば、そちらが優先されます。

・この機能を有効にすると「httpd.conf」にHSTS（ HTTP Strict Transport Security ）の設定も行われます。ただし、お客様がすでに「.htaccess」に設定されているものがあれば、そちらが優先されます。

3:常時SSL化設定

「.htaccess」と「httpd.conf」の違い

「.htaccess」

- ・特定のディレクトリ単位で設定を適用。
- ・サブディレクトリにも継承されます。
- ・お客様で設定が可能。

「httpd.conf」

- ・Apache のメイン設定ファイル。
- ・サーバー全体、または VirtualHost 単位で設定。
- ・お客様では設定不可。

HSTS (HTTP Strict Transport Security)

- ・一度サイトにアクセスしたブラウザは、次回以降HTTPSで接続します。（設定した有効期限max-ageを過ぎたらリセットされ、その後にアクセスされたところを起点に再びHTTPS接続になります）

設定値：Header always set Strict-Transport-Security "max-age=31536000; includeSubdomains; preload"

- ・HTTPSへのリダイレクト不要（ブラウザが自動でHTTPSに切り替える）。

4:Webサーバ管理> 送信元アドレス設定

今までWebサーバから送信されるメールの送信元アドレスは管理者アドレス固定となっていたましたが、契約ドメイン内の任意のアドレスを送信元アドレスに設定できる機能が追加されます。
ここで設定された送信元アドレスはWebサイト作成（CMS）、問合せフォーム設定の通知メールにも利用されます。

基本設定 メール Web オプション

☑ すべて開く ☐ すべて閉じる

送信元アドレス設定

Webサーバから送信するメールの送信元アドレスを設定します。
※本機能で設定した送信元アドレスは、Webサイト作成(CMS)、問合せフォーム設定の通知メールにも適用されます。

設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。

☒ 管理者メールアドレス

☐ @

設定

- ・送信元アドレスに設定できるアドレスは契約ドメインに存在しているアドレスのみです。
- ・アカウント管理で送信元アドレスで設定されたアドレスを削除する場合、存在チェックが入るため、先にこの画面から削除する必要があります。
- ・ドメインWebでは、メールアカウントの存在確認ができないため認証コードの登録が必要となります。

4:Webサーバ管理＞送信元アドレス設定

ドメイン/webでは設定された送信元アドレスの存在確認を行うことができません。そのため、1年に1回の存在確認を行っていただきます。

- ・送信元アドレスを任意のアドレスに変更する場合、設定されたアドレス宛に認証コードのメールが送信されますので、メールに記載された認証コードの登録が必要となります。
- ・認証コードの有効期限は1年間となりますので、1年に1回の更新が必要となります。
- ・有効期限の10日前に該当のアドレス宛にメールでお知らせが届きます。
- ・更新が行われない場合、送信元アドレスは管理者メールアドレスに変更されます。

○初期設定時は管理者メールアドレスになっています

送信元アドレス設定

Webサーバから送信するメールの送信元アドレスを設定します。

※ 任意のメールアドレスを設定される場合は、該当メールアドレス宛に認証コードを通知します。
※ ご利用のメールサービスにて、“@alpha-prm.jp”からのメールが受信できるよう設定を行ってください。
※ 任意で設定されたメールアドレスは、1年に1回の更新が必要となります。有効期限の10日前に該当アドレス宛にメールでご案内します。

設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。

☒ 管理者メールアドレス

☐ @

設定

4:Webサーバ管理＞送信元アドレス設定

○任意アドレス設定時

1：契約ドメイン内で任意アドレスを入力し、「次へ」ボタンをクリックします

2：入力したアドレス宛に認証コードが送信されますので、メールが受信できる状態であれば「OK」ボタンをクリックします。

「postmaster@alpha-prm.jp」からのメールが受信できるよう設定を行ってください。

4:Webサーバ管理> 送信元アドレス設定

○任意アドレス設定時

3: メールに記載された認証コードを入力し、「設定」ボタンをクリック

件名 メールアドレス認証コードのお知らせ

送信者 postmaster@alpha-prm.jp

「送信元アドレス設定」で以下の認証コードを入力してください。

558626

認証コードの有効期限は10分間です。

認証コード発行時間: 2025/09/11 15:38
対象機能: ドメイン/Webサービス 送信元アドレス設定

※このメールの送信元アドレスは送信専用です。ご返信によるお問い合わせは受け付けておりませんので、ご了承ください。
※本メールに心当たりがない場合は、メールの破棄をお願いいたします。

株式会社大塚商会 たよれーるコンタクトセンター
ドメイン/Webサービス担当

送信元アドレス設定

送信された認証コードを入力してください。
キャンセル ボタンをクリックすると発行された認証コードが無効になります。

メールアドレス	
認証コード	558626

設定 キャンセル

4:Webサーバ管理＞送信元アドレス設定

○任意アドレス設定時

4：設定が完了すると任意アドレスの横に認証コードの有効期限が表示されます。

送信元アドレス設定	
Webサーバから送信するメールの送信元アドレスを設定します。 ※ 任意のメールアドレスを設定される場合は、該当メールアドレス宛に認証コードを通知します。 ※ ご利用のメールサービスにて、“@alpha-prm.jp”からのメールが受信できるよう設定を行ってください。 ※ 任意で設定されたメールアドレスは、1年に1回の更新が必要となります。有効期限の10日前に該当アドレス宛にメールでご案内します。	
メールアドレス入力後、“次へ”ボタンをクリックしてください。	次へ
<input type="radio"/> 管理者メールアドレス	
<input checked="" type="radio"/> <input type="text"/> @ <input type="text"/>	認証の有効期限 2026/09/11

○任意アドレスから管理者メールアドレスへ変更時

有効期限内に管理者メールアドレスに変更しても任意アドレスの表示は残ったままです。

送信元アドレス設定	
Webサーバから送信するメールの送信元アドレスを設定します。 ※ 任意のメールアドレスを設定される場合は、該当メールアドレス宛に認証コードを通知します。 ※ ご利用のメールサービスにて、“@alpha-prm.jp”からのメールが受信できるよう設定を行ってください。 ※ 任意で設定されたメールアドレスは、1年に1回の更新が必要となります。有効期限の10日前に該当アドレス宛にメールでご案内します。	
設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。	設定
<input checked="" type="radio"/> 管理者メールアドレス	
<input type="radio"/> <input type="text"/> @ <input type="text"/>	認証の有効期限 2026/09/11

4:Webサーバ管理＞送信元アドレス設定

○認証コードの更新

1：有効期限10日前に任意のアドレス宛てに案内メールが届きます。

From : postmaster@alpha-prm.jp
Subject : 送信元アドレス設定 認証の有効期限 10日前のお知らせ
To : (任意指定メールアドレス)

お客様各位

たよれーる Microsoft 365 ドメイン/Webサービスをご利用いただきありがとうございます。

Webサーバから送信するメールの「送信元アドレス設定」の有効期限が10日前となりましたので、お知らせいたします。
お客様にはお手数をおかけいたしますが、該当アドレスを継続してご利用される場合は、ドメイン/Webサービスの会員サイトよりログインしていただき、「送信元アドレス設定」機能にて、認証コードの発行と入力をお願いいたします。

認証の有効期限が過ぎますと、自動的に送信元アドレスは"管理者メールアドレス"に変更されますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

登録されているメールアドレス：(任意指定メールアドレス)
メールアドレス認証の失効日：yyyy/mm/dd hh:mm
対象機能：ドメイン/Webサービス 送信元アドレス設定

2：送信元アドレス設定から任意アドレスの再設定をしてください。

「postmaster@alpha-prm.jp」からのメールが受信できるよう設定を行ってください。

4:Webサーバ管理＞送信元アドレス設定

○認証コードの更新

3：期限内に更新が完了しないと認証が失効して、送信元アドレスが管理者メールアドレスに変更されます。

送信元アドレス設定

Webサーバから送信するメールの送信元アドレスを設定します。

※ 任意のメールアドレスを設定される場合は、該当メールアドレス宛に認証コードを通知します。

※ ご利用のメールサービスにて、“@alpha-prm.jp”からのメールが受信できるよう設定を行ってください。

※ 任意で設定されたメールアドレスは、1年に1回の更新が必要となります。有効期限の10日前に該当アドレス宛にメールでご案内します。

設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。

設定

☒ 管理者メールアドレス

☐

@

認証の失効日 2026/09/11

5:ステージング環境管理

コンテンツやDBのデータを別サーバにコピーして動作確認を行えるよう、ステージング機能が追加されます。

- ステージング環境で公開するコンテンツへのアクセスはプロキシサーバー経由で行います
- ステージング環境の容量は最大10GBまで
- 有効期間は90日間
- ステージング環境では行えない機能があります
- 本番環境からステージング環境へのデータコピーが行えます
- Webサーババージョン2から移行されるお客様の場合、Webサーババージョン2の環境が削除されるまでステージング環境の作成は行えません。（移行中は利用できません）

5:ステージング環境管理 環境作成(環境存在しない場合)

ステージング環境がない状態で「ステージング環境管理」を選択すると、ステージング環境作成の画面になります。ここで、ステージング環境へコピーしたい内容を選択し、ステージング環境の作成を行います。

基本設定 Web オプション

すべてを開く すべてを閉じる

ディスク利用状況

アクセス解析

Webサーバログ

Webサイト作成(CMS)

作成ツール

FTPユーザ設定

FTP利用制限

FTP接続元制限

HTTP接続元制限

ファイルマネージャ

cron設定

MariaDB

PostgreSQL

Webサーバ管理

Webサーバ稼働状況

パッケージ管理

独自SSL管理

常時SSL化設定

Webマルチドメイン設定

ステージング環境管理

ステージング環境管理

ステージング環境を作成します。

環境作成時にデータのコピーを行うことができます。
PHPなどのバージョン変更は、ステージング環境が構築された後に設定できます。
※ステージング環境管理については、[こちら](#)をご確認ください。

メイン環境のコンテンツデータ

☒ コピーする
☐ コピーしない

メイン環境のMariaDBデータ

☒ コピーする
☐ コピーしない

メイン環境のPostgreSQLデータ

☒ コピーする
☐ コピーしない

メイン環境のSQLiteデータ

☒ コピーする
☐ コピーしない

ステージング環境を作成

PostgreSQLはWebサーババージョン2からの移行された場合のみ表示されます。

5:ステージング環境管理 (環境存在する場合)

ステージング環境が存在する状態で「ステージング環境管理」を選択すると、ステージング環境に対する操作メニューが表示されます。

The screenshot shows a web application interface with a sidebar on the left and a main content area on the right. The sidebar contains a list of settings, with 'ステージング環境管理' (Staging Environment Management) highlighted by a red box. The main content area displays the 'ステージング環境管理' (Staging Environment Management) page, which includes a title bar, a description, and several actionable items: 'Web管理者機能' (Web Administrator Function), 'メイン環境からのデータコピー設定' (Data Copy Setting from Main Environment), 'IPアドレス変更設定' (IP Address Change Setting), and 'ステージング環境削除' (Staging Environment Deletion).

基本設定 | メール | Web | オプション

☒ すべて開く ☐ すべて閉じる

➡ ディスク利用状況

➡ アクセス解析

➡ Webサーバログ

➡ Webサイト作成(CMS)

➡ 作成ツール

➡ FTPユーザ設定

➡ FTP利用制限

➡ FTP接続元制限

➡ HTTP接続元制限

➡ ファイルマネージャ

➡ cron設定

➡ MariaDB

➡ PostgreSQL

➡ Webサーバ管理

➡ Webサーバ稼働状況

➡ パッケージ管理

➡ 独自SSL管理

➡ 常時SSL化設定

➡ Webマルチドメイン設定

➡ **ステージング環境管理**

ステージング環境管理

ステージング環境を管理します。
※ ステージング環境管理については、[こちら](#)をご確認ください。

▶ **Web管理者機能**

ステージング環境のWeb管理者機能を起動します。

▶ **メイン環境からのデータコピー設定**

メイン環境のデータを指定してステージング環境へコピーします。

▶ **IPアドレス変更設定**

ステージング環境のIPアドレスを変更します。

▶ **ステージング環境削除**

ステージング環境を削除します。

5:ステージング環境管理 (Web管理機能)

ステージング環境管理
ステージング環境を管理します。
※ステージング環境管理については、[こちら](#)をご確認ください。

Web管理者機能
ステージング環境のWeb管理者機能を起動します。

メイン環境からのデータコピー設定
メイン環境のデータを指定してステージング環境へコピーします。

IPアドレス変更設定
ステージング環境のIPアドレスを変更します。

ステージング環境削除
ステージング環境を削除します。



管理者機能

ステージング環境 Web管理者機能

同期していません

ご利用メニュー ヘルプ ウィンドウを閉じる

ステージング環境

Web

すべて開く すべて閉じる

- ディスク利用状況
- Webサーバログ
- HTTP接続元制限
- MariaDB
- PostgreSQL
- Webサーバ管理
- Webサーバ稼働状況
- パッケージ管理
- 独自SSL設定
- 常時SSL化設定
- Webマルチドメイン設定

メニューを選択してください。

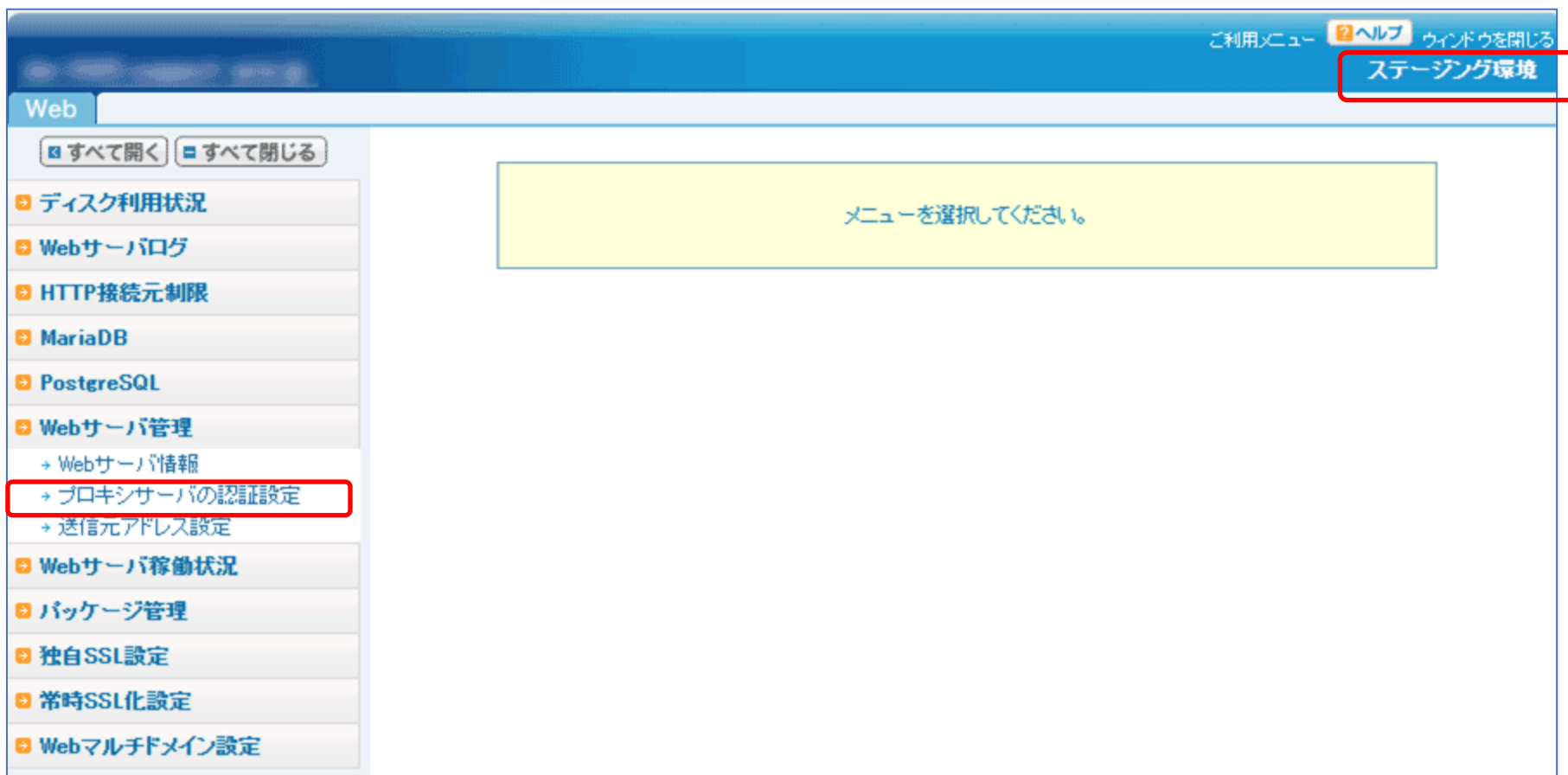
メインの管理者機能とは別のタブで管理者機能が開き、
右上に「ステージング環境」の文字が表示されます。

5:ステージング環境管理 (ステージング環境への接続)

ステージング環境で公開するコンテンツへのアクセスはプロキシサーバー経由で行います。

【手順】

1 : ステージング環境 > Web管理者機能 > Webサーバ管理 > プロキシサーバーの認証設定



5:ステージング環境管理 (ステージング環境への接続)

ステージング環境で公開するコンテンツへのアクセスはプロキシサーバー経由で行います。
プロキシサーバーの利用には認証が必要になり、セキュリティのためパスワードは有効期限を過ぎると再作成が必要になります。

【手順】

2: プロキシサーバのパスワード作成を行います。

パスワードが未作成の場合は「作成」ボタンより、パスワードの作成を行います。

プロキシサーバの認証設定	
プロキシサーバのパスワードの作成または、削除を行います。	
設定完了後、必ず“作成”または“削除”ボタンをクリックしてください。	
	<input type="button" value="作成"/> <input type="button" value="削除"/>
ログインID	
パスワード	未作成



プロキシサーバの認証設定	
プロキシサーバのパスワードの作成または、削除を行います。	
設定完了後、必ず“作成”または“削除”ボタンをクリックしてください。	
	<input type="button" value="作成"/> <input type="button" value="削除"/>
ログインID	
パスワード	パスワード有効期限 2025/10/16

パスワードの有効期限は30日です。

5:ステージング環境管理 (ステージング環境への接続)

【手順】

3 : ステージング環境 > Web管理者機能 > Webサーバ管理 > Webサーバ情報
ステージング環境用プロキシサーバの情報を確認します。

The screenshot displays the 'Web' management interface. In the top right corner, a red box highlights the 'ステージング環境' (Staging Environment) tab. On the left sidebar, the 'Webサーバ管理' (Web Server Management) menu is expanded, and the 'Webサーバ情報' (Web Server Information) sub-item is highlighted with a red box. The main content area, titled 'Webサーバ情報', contains a table with the following data:

Webサーバに関する情報です。	
IPアドレス	
ドキュメントルート	/var/www/html
サーバ種別	ステージング環境
ステージング環境用プロキシサーバ	IPアドレス 157.205. ポート番号 80 ログインID、パスワードは、 “プロキシサーバの認証設定” をご確認ください。
共用SSL	https:// ssl.jp

5:ステージング環境管理 (ステージング環境への接続)

【手順】

4：クライアントPCのプロキシサーバの設定を行います。

クライアントの設定参照URL：https://dw.alpha-prm.jp//support/help/mail_p_kanri_0826_10.html

プロキシサーバーを編集

プロキシサーバーを使う

☒ オン

プロキシ IP アドレス

ポート

157.205.

80

次のエントリで始まるアドレス以外にプロキシサーバーを使います。エントリを区切るにはセミコロン (;) を使います。

☐ ローカル (イントラネット) のアドレスにはプロキシサーバーを使わない

保存

キャンセル

Webサーバ情報

Webサーバに関する情報です。

IPアドレス	
ドキュメントルート	/var/www/html
サーバ種別	ステージング環境
ステージング環境用プロキシサーバ	IPアドレス 157.205. ポート番号 80 ログインID、パスワードは、“ プロキシサーバの認証設定 ”をご確認ください。
共用SSL	https:// ssl.jp

5:ステージング環境管理 (ステージング環境への接続)

【手順】

5：プロキシサーバ経由でサイトへ接続します。

プロキシサーバの認証設定		
プロキシサーバのパスワードの作成または、削除を行います。		
設定完了後、必ず“作成”または“削除”ボタンをクリックしてください。		<input type="button" value="作成"/> <input type="button" value="削除"/>
ログインID	<input type="text"/>	
パスワード	<input type="password"/>	パスワード有効期限 2025/10/16

このサイトにアクセスするにはサインインしてください

では認証が必要となります
このサイトへの接続は安全ではありません

ユーザー名

パスワード

5:ステージング環境管理 (メイン環境からのデータコピー設定)

ステージング環境作成後にメイン環境で修正したデータを再度、ステージング環境へコピーしたい時に利用します。

メイン環境からのデータコピー設定	
メイン環境からステージング環境にコピーするデータを選択します。	
設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。	
<input type="button" value="設定"/>	
■メイン環境→ステージング環境	
ホームページデータ	<input checked="" type="radio"/> コピーする <input type="radio"/> コピーしない ※ステージング環境の同名ファイルが上書きされます。
MariaDBのデータ	<input checked="" type="radio"/> コピーする <input type="radio"/> コピーしない ※現在ステージング環境にあるデータベースはすべて削除されます。その後メイン環境のデータベースをすべてコピーします。
PostgreSQLのデータ	<input checked="" type="radio"/> コピーする <input type="radio"/> コピーしない ※現在ステージング環境にあるデータベースはすべて削除されます。その後メイン環境のデータベースをすべてコピーします。
SQLiteのデータ	<input checked="" type="radio"/> コピーする <input type="radio"/> コピーしない ※現在ステージング環境にあるデータベースはすべて削除されます。その後メイン環境のデータベースをすべてコピーします。

- DBのデータは現在ステージング環境にあるデータベースはすべて削除され、その後メイン環境のデータベースをすべてコピーします。ステージング環境でのみ、新たに作成されたデータベースは削除されますのでご注意ください。
- PostgreSQLはWebサーババージョン2からの移行された場合のみ表示されます。

5:ステージング環境管理 (IPアドレス設定変更)

社内ポリシー等により、プロキシサーバをご利用いただけないお客様は、メイン環境とステージング環境のIPアドレスの切替を行って、ステージング環境の確認を行っていただけます。

IPアドレス変更設定	
ステージング環境のIPアドレスを設定します。 <small>※グローバルIPに付け替えを行うと、ステージング環境のサイトがインターネットに公開されます。ステージング環境用のプロキシサーバが利用できない場合、一時的にグローバルIPに変更</small>	
設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。	
ステージング環境のIPアドレス	<input checked="" type="radio"/> プライベートIP (使用中) <input type="radio"/> グローバルIP 157.205.

- ステージング環境のIPアドレスをグローバルIPに変更すると、ステージング環境側のサイトが公開されることになるので、ご利用の際には注意が必要です。

5:ステージング環境管理 (ステージング環境削除設定)

ステージング環境は最長90日間ご利用いただけます。ただし、期限前に環境が不要となった場合には任意のタイミングでステージング環境の削除が行えます。

ステージング環境削除設定	
ステージング環境を削除します。 ステージング環境を削除します。 ※ ステージング環境に設定済みのデータもすべて削除されます。必要なデータはバックアップを取得してから削除を行ってください。	
設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。	
ステージング環境の削除	<input checked="" type="radio"/> 削除しない <input type="radio"/> 削除する

・この処理を実行すると、設定済のデータもすべて削除されます。削除前に必要なデータはバックアップを取得してから削除してください。

仕様変更

7:モバイルURL振り分け（docomo,au,softbankの設定欄削除）

3G関連のサービスが終了するため、「作成ツール> モバイルURL振り分け」機能をスマートフォンのみに変更します。

モバイルURL振り分け

アクセスしてきたモバイル端末を、指定のページへ振り分ける設定をします。
※iPadはスマートフォンの振り分けには含まれません。

設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。

設定

振り分け機能

Webサイトにアクセスしたモバイル端末を自動判別し、設定したURLに振り分けます。

☐ 振り分ける
☒ 振り分けない

振り分け元URL

モバイルURL振り分けを行うURLを指定してください。
※指定したURLにアクセスした場合のみ、モバイルURL振り分けが行われます。
※Webサイト作成でスマートフォンページを公開しており、振り分け元URLが重複する場合は、Webサイト作成の振り分け設定がスマートフォンの振り分け先URLに設定されます。

URL	http://www	
	https://	ssl.jp/

振り分け先URL

自動判別後の振り分け先URLを指定してください。

スマートフォン	http://
---------	---------

【 Webサーババージョン2でdocomo,au,softbankの設定をしていた場合】

- ・移行後も.htaccessの設定は引き継がれ、 Webサーババージョン3の画面で操作を行った場合にも.htaccessの設定は残ります。
- ・ Webサーババージョン3の画面からの修正や削除は行えないため、必要に応じてお客様に直接.htaccessをメンテナンスしていただきます。

8:ファイルマネージャ 登録サイズ上限引き上げ

FTPの利用を制限し、ファイルマネージャーでのみ安全にファイル転送を利用したいというニーズにお応えして、1回のアップロードサイズの上限を引き上げます。

【 Webサーババージョン2 】

1ファイルあたりの上限：100MB

1度にアップロードできる合計ファイル数：10ファイル、合計サイズ：100MB

↓

【 Webサーババージョン3 】

1ファイルあたりの上限：1GB

1度にアップロードできる合計ファイル数：10ファイル、合計サイズ：10GB※1ファイル1GB上限

ZIP展開可能なファイル：1GB上限

ZIP圧縮可能なファイル：4GB上限

9:独自SSL設定 証明書、秘密鍵の取得

Webサーバに現在設定中の証明書(cert)、中間CA証明書、秘密鍵をテキストエリア内に表示できる機能が追加されます。また、独自SSL証明書を設定した最終設定日時が画面上に表示されます。

独自SSL設定

[CSRの作成]にて作成したCSRを元に、認証局が発行したSSLサーバ証明書をご利用のWebサーバに設定します。
※SSLサーバ証明書が中間認証局証明書のインストールを必要とする場合は、SSLサーバ証明書と同時に「中間認証局証明書欄」に証明書を貼り付けてください。
※管理者機能以外でCSRを作成している場合、SSLサーバ証明書と同時に「秘密鍵欄」に秘密鍵を貼り付けてください。
※SSLサーバ証明書は、X.509形式にて設定してください。

最終設定日時	2025/09/05 15:42
--------	------------------

設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。

SSLサーバ証明書 *

-----BEGIN CERTIFICATE-----
[証明書内容]
-----END CERTIFICATE-----

SSLサーバ証明書(cert)を表示する

* は必須です。
認証局から発行されたSSLサーバ証明書の
-----BEGIN CERTIFICATE-----
から
-----END CERTIFICATE-----
を含めたすべての行をコピーし上の欄に貼り付けてください。

「表示する」をクリックすると、テキストボックス内に現在設定中の情報が表示されます

37

Copyright©2026 OTSUKA CORPORATION All Rights Reserved.

9:独自SSL設定 証明書、秘密鍵の取得

<p>中間認証局証明書</p>	<div data-bbox="522 164 1319 456"><pre>-----BEGIN CERTIFICATE----- [blurred text] -----END CERTIFICATE-----</pre></div> <div data-bbox="1345 421 1727 492"><input type="button" value="中間認証局証明書(cert)を表示する"/></div> <p>SSLサーバ証明書が中間認証局証明書のインストールを必要とする場合、必須です。 認証局から発行された中間認証局証明書の -----BEGIN CERTIFICATE----- から -----END CERTIFICATE----- を含めたすべての行をコピーし上の欄に貼り付けてください。 ※連結ファイルをご利用の場合は認証局指定の順番で分割せずに貼り付けてください。</p>
<p>秘密鍵</p>	<div data-bbox="522 731 1319 1023"><pre>-----BEGIN RSA PRIVATE KEY----- [blurred text] -----END RSA PRIVATE KEY-----</pre></div> <div data-bbox="1345 973 1584 1045"><input type="button" value="秘密鍵を表示する"/></div> <p>管理者機能以外の方法でCSRを作成している場合、必須です。 設定するSSLサーバ証明書とペアになっている秘密鍵の -----BEGIN RSA PRIVATE KEY----- から -----END RSA PRIVATE KEY----- を含めたすべての行をコピーし上の欄に貼り付けてください。</p>

「表示する」をクリックすると、テキストボックス内に現在設定中の情報が表示されます

「クロスルート方式用中間認証局証明書」は今後クロスルート証明書が廃止される方向にあるため、機能を削除しました。

10:FTP接続元制限（優先順位の変更）

海外接続と許可IPの優先順位を変更します。

Webサーババージョン2：海外接続制限＞許可IPアドレス

Webサーババージョン3：許可IPアドレス＞海外接続制限

【Webサーババージョン2】

海外接続	
海外からのFTP接続を制限します。	
設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。	設定
※すべてのFTPユーザの海外からの接続が遮断されます。	
※“許可IPアドレス”で海外のIPアドレスを許可されている場合は、制限しないでください。本設定が優先され接続できなくなります。	

許可IPアドレス

FTPの接続を許可するIPアドレスを設定します。制限しているFTPユーザは、ここで許可したIPアドレスからのみ接続できます。

※IPアドレスは、計100件まで登録できます。

※プライベート（ローカル）アドレス、ネットワークアドレスは指定できません。

※固定IPアドレスを指定してください。不明な場合は、プロバイダの契約内容をご確認ください。

※「海外接続」で「制限する」を選択している場合は、この画面で海外のIPアドレスを登録しても、FTP接続はできません。

【Webサーババージョン3】

海外接続	
海外からのFTP接続を制限します。	
設定完了後、必ず“設定”ボタンをクリックしてください。	設定
※すべてのFTPユーザの海外からの接続が遮断されます。	
※「許可IPアドレス」で登録した海外のIPアドレスは、“制限する”を選択した場合でも接続が可能になります。	

許可IPアドレス

FTPの接続を許可するIPアドレスを設定します。制限しているFTPユーザは、ここで許可したIPアドレスからのみ接続できます。

※IPアドレスは、計100件まで登録できます。

※プライベート（ローカル）アドレス、ネットワークアドレスは指定できません。

※固定IPアドレスを指定してください。不明な場合は、プロバイダの契約内容をご確認ください。

※「海外接続」で「制限する」を選択している場合でも、この画面で登録した海外のIPアドレスからFTP接続ができます。

10:FTP接続元制限（許可IPアドレス CIDR対応）

他のIPアドレス登録・変更時と同様に、CIDR表記を選択できるようになります。
CIDR表記選択時には、IPアドレスおよびサブネットマスクの登録が可能です。

許可IPアドレス登録 - 職場 - Microsoft Edge

新しい許可IPアドレスを登録します。
必要な情報を入力してください。

* 許可IPアドレス

☒ IP 指定
☐ CIDR 表記

備考 (32文字以下で入力)

* は必須入力項目です。

- 【許可IPアドレス】
IP指定
0～255 までの数字を入力してください。
CIDR表記
連続したIPアドレスを指定する場合にご利用ください。
例) 157.205.xxx.0 ～ 157.205.xxx.255 の場合は 157.205.xxx.0/24
「範囲表示」をクリックすると指定した範囲が入力欄の下に表示されます。
入力内容を変更した場合は、再度「範囲表示」をクリックしてください。
- 【備考】
32文字以下で入力してください。

登録 閉じる

11:ディスク利用状況

ステージング環境が申し込みされている場合、ステージング環境のディスク利用状況も表示を追加します。

ディスク利用状況				
ディスク全体の利用状況です。				
現在の使用量			使用率	最大容量
メール		58KB	2.6%	50GB
Web	全体	1.26GB		
	(内)データベース	195MB		

ステージング環境のディスク利用状況				
ディスク全体の利用状況です。				
現在の使用量			使用率	最大容量
Web	全体	161MB	1.6%	10GB
	(内)データベース	160MB		

12:Webサーバ情報の変更

ご利用いただくWebサーバの環境がサーババージョン3より変更されます。
詳細は以下のURLよりご確認ください。

PHP

https://dw.alpha-prm.jp/support/server_info/php/

CGI

https://dw.alpha-prm.jp/support/server_info/cgi/

MySQL

https://dw.alpha-prm.jp/support/server_info/mysql/

MariaDB

https://dw.alpha-prm.jp/support/server_info/mariadb/

PostgreSQL

https://dw.alpha-prm.jp/support/server_info/postgresql/

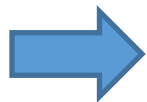
SQLite

https://dw.alpha-prm.jp/support/server_info/sqlite/

13:アクセスカウンタの削除

アクセウカウンタの機能は削除されます。

【Webサーババージョン2】



【Webサーババージョン3】

